

抗がん剤治療におけるペグフィルグラスチムの使用に関する研究へのご協力をお願い

研究名

DTX(ドセタキセル)+RAM(ラムシルマブ)療法における持続型 G-CSF(ペグフィルグラスチム)投与の実態調査

1.研究の対象

2018年4月～2021年3月の間に外来通院で抗がん剤(ドセタキセルとラムシルマブ)治療し、持続型 G-CSF 製剤(ペグフィルグラスチム)を使用する患者さま

2.研究目的・方法

【目的】

非小細胞性肺癌治療のひとつである DTX(ドセタキセル)+RAM(ラムシルマブ)療法では副作用として発熱性好中球減少症の発症率が高いため、G-CSF による予防投与が推奨されています。

近年、持続型 G-CSF 製剤(ペグフィルグラスチム)の併用が多く施設で用いられていることが報告されています。当院で最も使用例が多い DTX+RAM 療法でのペグフィルグラスチムの使用実態を調査して有用性を検証し、今後の抗がん剤治療において発熱性好中球減少症の発症予防に寄与することを目的とします。

【方法】

当院で DTX+RAM 療法を実施する患者さまを対象に、ペグフィルグラスチムの使用状況について電子カルテを用いて調査します。

3.研究に用いる情報の種類

患者さんの年齢・性別、発熱性好中球減少症(FN)の発症状況、ペグフィルグラスチムの使用時期・回数・使用目的

4.外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された対象者さまを特定する個人情報とは公開いたしません。また、調査に利用させていただいた情報は、個人が特定できない状態でパスワードをかけて厳重に管理いたします。

この研究を行うことによる対象者さまへの負担はありません。

5.研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 鹿間友絵

6. お問い合わせ

本研究への協力を望まれない方は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡をお願いいたします。

病院代表：045-832-1111 (内線 267) 担当者 鹿間友絵